

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成19年6月7日(2007.6.7)

【公開番号】特開2005-316756(P2005-316756A)

【公開日】平成17年11月10日(2005.11.10)

【年通号数】公開・登録公報2005-044

【出願番号】特願2004-134460(P2004-134460)

【国際特許分類】

G 0 6 Q 10/00 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 17/60 1 7 0 A

【手続補正書】

【提出日】平成19年4月13日(2007.4.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項10

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項10】

コンジョイント分析を行うコンジョイント分析方法であつて、

作成したプロファイルを被験者に対して提示する工程と、

上記コンジョイント分析を行うサーバ装置が、上記被験者に対して提示された複数のプロファイルのうち任意数のプロファイルに対して当該被験者によって選択された選好順位及び選好度を回答として取得する工程と、

上記サーバ装置が、取得した選好順位及び選好度に基づいて購買確率を求め、多項ロジット・モデルを用いたロジスティック回帰を行うことによってコンジョイント分析を行う工程とを備えること

を特徴とするコンジョイント分析方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項11

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項11】

コンジョイント分析を行うコンピュータ実行可能なコンジョイント分析プログラムであつて、

上記コンピュータを、

作成したプロファイルを被験者に対して提示する手段、

上記被験者に対して提示した複数のプロファイルのうち任意数のプロファイルに対して当該被験者によって選択された選好順位及び選好度を回答として取得する手段、及び、

取得した選好順位及び選好度に基づいて購買確率を求め、多項ロジット・モデルを用いたロジスティック回帰を行うことによってコンジョイント分析を行う手段として機能させること

を特徴とするコンジョイント分析プログラム。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

また、上述した目的を達成する本発明にかかるコンジョイント分析方法は、コンジョイント分析を行うコンジョイント分析方法であって、作成したプロファイルを被験者に対して提示する工程と、上記コンジョイント分析を行うサーバ装置が、上記被験者に対して提示された複数のプロファイルのうち任意数のプロファイルに対して当該被験者によって選択された選好順位及び選好度を回答として取得する工程と、上記サーバ装置が、取得した選好順位及び選好度に基づいて購買確率を求め、多項ロジット・モデルを用いたロジスティック回帰を行うことによってコンジョイント分析を行う工程とを備えることを特徴としている。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

さらに、上述した目的を達成する本発明にかかるコンジョイント分析プログラムは、コンジョイント分析を行うコンピュータ実行可能なコンジョイント分析プログラムであって、上記コンピュータを、作成したプロファイルを被験者に対して提示する手段、上記被験者に対して提示した複数のプロファイルのうち任意数のプロファイルに対して当該被験者によって選択された選好順位及び選好度を回答として取得する手段、及び、取得した選好順位及び選好度に基づいて購買確率を求め、多項ロジット・モデルを用いたロジスティック回帰を行うことによってコンジョイント分析を行う手段として機能させることを特徴としている。